

情報化時代といわれている近年、各家庭にはパソコンが急速に普及し、インターネットもたいへん身近なものになってきています。

そのような中、区内には、ホームページで地域の情報を発信したり、電子メールで意見交換しながら遠くに住む人たちと共同作業を行ったりなど、インターネットを活用して自分たちの活動範囲を広げている人たちがいます。

今回は、そんな取り組みを紹介しましょう。

区内を流れる新川沿いに位置する新川連合町内会では、昨年十一月中旬にホームページを開設しました。連合町内会のホームページは、市内で二番目、区内では最初



<http://www.shinkawarengo.jp/>

ホームページで町内会活動を紹介



▲「ホームページの開設には、多くの苦勞がありました」と、話す長島さん(左)と不破さん

です。「きっかけは、地域住民が主体となって取り組んだ新川さくら並木事業を、より多くの人たちに知ってもらいたいと思ったこと」。同連合町内会副会長の長島光治さんは、こう話します。

担当は、ホームページ作成の経験がある町内会役員の不破學さん。早速、インターネットで全国の町内会が開設するホームページを調べたり、資料を取り寄せたりと、研究を始めました。実際の作成作業に取り掛かってから完成するまでは、約半年間もかかったそうです。「町内会のホームページなので、掲載内容や表現方法、プライバシーの保護などには特に気を付けましたね」と、不破さんは作成中の苦勞を教えてくださいました。

このホームページでは、地域の歴史や連合町内会の活動などを分かりやすく紹介しています。さら



▲ホームページを管理する不破さん。ここから、より新しく身近な地域情報が発信されています

に、新川さくら並木事業については、完成までの道のり、その後の手入れの様子や桜の開花時期に合わせて開催する合唱祭の様子を、文や写真、新聞の切り抜きを織り交ぜて詳しく紹介しています。

また、リンクという機能を使うと地区内の単位町内会のホームページを簡単に見ることが出来ます。「まだ一つしかありませんが、これから増えていけば、どんどん結び付けていきたいですね」と、話す不破さん。ホームページ同士をつなぐことにより情報が広がり、地域もつながっていきます。

開設して間もなく町内に住む人から「開設おめでとう」と、お祝いの電子メールが届いたときは、とてもうれしかったそうです。

「電子メールで寄せられる意見も参考にしながら、ますます充実させていきたいですね」と、長島さんはこれからの抱負を語ってくれました。

ホームページによって交流の輪が広がり、地域活動がますます活発になっていくことでしょう。

市民情報センターをご存知ですか？

昨年十月にオープンした市民情報センター。ここでは、インターネットなどで、札幌に関する情報を国内外へ発信するとともに、地域の情報化を支える人を育成するための施設です。

三階建てのこの施設の一階には、市民の皆さんがパソコンなどを使ってIT（情報技術）の利点を気軽に体験できる「情報プラザ」を設置。インターネットに接続できるパソコンを無料で利用することができ、パソコンを初めて利用する方は、職員からの簡単なアドバイスを受けることもできます。

また、最先端の情報機器や子ども向けのパソコンなども備えるほか、簡単なパソコン操作を学ぶものから、ホームページを作成する本格的なものまで、さまざまなお料講座を開催し、幅広い世代の情報活用能力の向上を図っています。興味のある方は、ぜひ、利用してみたいかがでしょうか。

所在地 白石区東札幌五条一丁目

☎ (022) 39800

開館時間 午前十時～午後九時

(火・金) 午前十時～午後六時

(土・日) 月曜・年末年始は休館

入館料 無料。情報プラザの利用は会員登録が必要。